

緊急情報

白穂被害ほ場の管理について（水稻）

令和8年8月28日
新発田農業普及指導センター

8月1日0時から8月2日19時頃にかけての急激な湿度低下、8月3日から8月4日にかけての強風により阿賀野市・新発田市で水稻被害が見られています。主な被害は、水稻の白穂と変色粳の発生です。これらは、収量・外観品質に影響するため、各ほ場の発生状況を観察し被害程度を把握しましょう。また、被害が発生していても、あきらめず適正な栽培管理を継続し被害拡大を最小限に食い止めましょう。

1 被害程度の日安（下表は、水稻栽培指針より抜粋）

（1）白穂の発生状況から被害程度を予想する場合

白穂割合(%)	5	10	20	30	40	50	60	70
減収率(%)	20	30	40	50	60	70	80	90

（2）変色粳の発生状況から被害程度を予想する場合

変色粳割合 (%)	粳ずれ程度が軽い	5	10	40	70
減収率 (%)	5	10	20	50	80

2 今後の栽培管理

被害の遭遇時期は、早生品種で登熟初中期、こがねもちで穂揃期から登熟初期、移植コシヒカリで穂ばらみ期～穂揃期頃となっています。遭遇した時の生育ステージによって被害の様相が異なるため、以下の点に留意し管理の徹底を図りましょう。

（1）共通事項

ア 白穂が発生したほ場は、白未熟粒等の混入が懸念されるため無被害ほ場と区別して収穫・乾燥調製を行う。

イ 変色粳の多発生しているほ場は、登熟歩合や千粒重の低下による白未熟粒の混入が懸念されるため、無被害ほ場と区別して収穫・乾燥調製を行う。

特に変色粳割合 30%以上のほ場は、着色粒が混入する恐れがあるので注意する。

ウ 着色粒は刈取時期が遅れるほど増加することが予想されるため、変色粳多発生ほ場では、粳の黄化率が85～90%に達したら直ちに収穫作業を行う。

エ くず米が多くなり粳・玄米水分のばらつきが大きく、過乾燥や乾燥終了時の水分の戻りが生じやすくなることが想定される。水分測定時は、青米やくず米を除いた整粒の水分を手持ちの水分計で必ず確認し、仕上げ水分を15.0%にする。

オ 乾燥機への張り込み水分が18%程度まで低下している場合は、胴割米の発生に注意する。張り込み後に軽めに通風循環した後、夜間まで半日程度貯留して水分ムラを解消させてから加熱乾燥する。乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能が備わっている場合は、それを活用する。

カ 玄米に未熟粒や着色粒が多く混入し、品質低下が懸念される場合は、色彩選

別機を活用し整粒歩合の向上を図る。

(2) 早生品種

白穂は少ないものの変色粳が見られていることから、適期収穫を行うとともに、乾燥調製を丁寧に実施し品質低下を最小限に抑える。

(3) 出穂の遅い早生品種、こがねもち・コシヒカリ等の中生品種、晩生品種

出穂後 25 日までは湛水管理による水管理を継続する。最終かん水では十分に湛水して可能な限り遅くまで土壌水分を保ち登熟促進を図る。

<参考>

① 阿賀野市籠田のこしいぶき調査ほにおける被害調査結果

<出穂期：7 月 24 日、変色粳割合（粳の表面 30%以上着色及び白穂粳）：24%>

- ・令和 8 年は平成 27 年と比較し未熟粒の割合が 39 ポイント高く、整粒の割合が低下していることから、強風の影響を強く受けているものと推定される。

調査ほ名	整粒	胴割	未熟粒					
			乳白粒	基部未熟粒	腹背白未熟粒	青未熟粒	その他未熟粒	計
R8籠田こしいぶき 800℃	36.3	0.0	11.9	2.9	3.6	17.9	25.7	62.0
比較 H27 籠田こしいぶき 800℃	74.8	0.3	3.7	0.4	0.0	4.5	14.4	23.0

※ 800℃とは、出穂後の平均気温を積算し、おおむね 800℃に達した時点の積算気温をいう。

※ 平成 27 年は 8 月 24 日～26 日にかけての台風 15 号の接近に伴う強風により、白穂・変色粳、脱粒等が発生した年次

② 白穂割合の発生程度別のほ場の写真

○白穂割合 23%のほ場



撮影日：令和 8 年 8 月 10 日 撮影場所：阿賀野市保田堤ヘリ

○白穂割合 38%のほ場



撮影日：令和8年8月10日 撮影場所：阿賀野市久保向

③ 変色籾率 30%の稲の写真



出典：平成26年度新発田地域の稲作別冊
「台風11号による強風フェーン被害の記録」より引用